特定非営利活動法人 しがNPOセンター
2022度 事業報告書

2022年度事業報告書

概要（Ｐ1）

１　市民活動・NPO支援のための情報提供、相談･コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる事業（Ｐ2）

⑴情報提供
⑵相談・コンサルティング
⑶まちづくりサロン
⑷明治ホールディングスお菓子寄贈　団体推薦

２　地域コミュニティ支援のための情報提供、相談･コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業（Ｐ4）

⑴情報提供
⑵まちづくり協議会計画策定支援

３　協働推進（Ｐ5）

⑴行政との協働
⑵企業・団体との協働
⑶役員・職員が関わる委員会等

４　調査研究事業・政策提案（Ｐ17）

⑴コラム発信
⑵孤独・孤立対策への取り組み
⑶休眠預金の現状と課題勉強会への参加
⑷NPO/市民活動支援共有ミーティング（通称「わくわく会議」）への参加

５　災害ボランティアコーディネート事業（Ｐ19）

⑴「災害支援市民ネットワークしが」の運営
⑵近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度
⑶滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会

６　ネットワークの構築（Ｐ23）

⑴近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度
⑵日本NPOセンターCEO会議
⑶中間支援センター意見交換会への参加

７　会議等の開催（Ｐ24）

(1) 総会

(2) 理事会

概　　要

2022 年度は、世界的にはロシアのウクライナ侵攻による世界情勢に対する不安もあり、ざわついた感の 1 年であった。日本では、引き続きコロナウイルス感染の社会に与える影響が大きく、また、円安なども影響した急激な消費者物価の高騰もあって、生活が良くならないと不安を感じている人が多かった。少子化問題はもう取り戻せないほどの対応遅れが指摘され、政府もようやく重い腰を上げたが、どの程度の効果があるのかが見えてこない。ヤングケアラーへの対応が滋賀県でもなされるようになってきたが、政府が取り組んでいる孤独・孤立対策も規模的にもまだまだ不十分である。

大きな社会的課題を抱えながらも政治への関心は低く、参議院選挙期間中の安倍元首相の襲撃事件をきっかけに注目された政治と宗教の関係が問われても投票率は低いままで、民主主義の危機的な状況になっている。

しがＮＰＯセンターでは、民主主義の危機、日本のこれからを考える上で直接的な活動をしているわけではないが、毎月のコラム発信や読書会を通じて問題提起をしている。市民が自立的・自律的に動くことが必ず良い社会をつくるという思いを持ち、市民活動がその中心になって多様な活動を展開していくような支援を引き続き行ってきた。

近畿ろうきんパートナーシップ制度共通企画で講演をしてもらった川中大輔さんから今の若者がかつてのようにＮＰＯの組織化に熱心でなく、運動性よりもビジネス化志向であるという話を聞いて、これまで大きな柱として取り組んできた人材育成が本年度も新たに展開できなかったことから課題を残した。この近畿ろうきんパートナーシップ制度の 2 府 4 県共通企画では、しが NPO センターが当番として企画・運営に当たった。

市民活動支援のベーシックな活動である相談事業は、しがＮＰＯセンターで重要な位置付けをしており、設立当初から多岐にわたる内容の相談に応じてきた。オンラインを活用した相談は、活用の幅が広がった。

草津市の協働のまちづくり推進支援委託業務では、草津市立市民総合交流センター（キラリエ草津）の空間デザイン業務の検討を行い、協働ひろばの運営のアドバイスを行うとともに、ラウンドテーブル・市民活動交流会の企画実施を行った。市も中間支援も職員が入れ替わったので、本来の協働のあり方を確認しつつの一年だった。

企業・団体との協働関係では、引き続き、平和堂財団の環境保全助成金事業「夏原グラント」、生活協同組合コープしがとの「できるコトづくり制度」に取り組んだ。大和リース（株）との協働事業である「まちづくりスポット大津」は、ＮＰＯ法人まちづくりスポット大津のアドバイザーとしてサポートした。「夏原グラント」は、滋賀県・京都府の環境保全等の市民活動団体の活動を支える役割を果たしている。民間の助成金規模としては滋賀県では突出している。本年度は 10 周年記念として PR 動画を作成しサイトで公開して制度の PR に努めた。講座や昨年度コロナウイルス感染拡大のため途中で中止となった交流会は、予定していた事業が計画どおり実施できた。個別コンサルティング、訪問レポートを専用サイトに掲載することでの情報公開などにも対応した。継続希望団体へのヒアリング、相談会の実施、団体の組織運営サポートなどにも積極的に取り組んだ。「できるコトづくり制度」はコープしがが主宰し、さまざまな「想い」や「願い」を持った個人や団体が新たな一歩を踏み出すための学習の場の提供と、それらを実現させるために必要な資金の助成の二本立てとなっている。2023 年度採択の審査会は外部委員を 1 名増やし、久々の対面での開催となった。講座はオンラインと会場での開催、助成金説明会・相談会もオンライン併用で行うとともに、コロナウイルス感染の影響での事業の休止や変更にかかるサポートをした。団体の訪問レポートを専用サイトに掲載することでの情報公開などにも対応した。

「災害ボランティアコーディネート事業」では、しが NPO センターが事務局を担っている「災害支援市民ネットワークしが」の研究会を、近畿ろうきんの NPO パートナーシップ制度の活用により 4 回実施した。

1　市民活動・NPO 支援のための情報提供、相談･コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる事業

(1)情報提供

ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどで、NPO 支援のための情報や NPO コラムを発信した。
会員に向けては、メールの一斉送信などで情報提供を行った。

(2)相談・コンサルティング

①相談業務

2022 年度は、有料相談はなかった。プライベートな内容ではあるが簡単な問い合わせや逆に深刻な問い合わせなど様々な相談があり、対応できる場をお伝えした。深刻な問い合わせについては、いろいろなところへ相談したが適切なところにたどり着けていないようで、相談したいがどこにすればいいかわからないことが多いのだと感じた。有料相談ではないが、適切なところへつなげられるようなネットワークや関係性を築いていくことが必要である。

委託業務内での相談でも、税務や労務関係の専門的な知識や情報が必要な場合もあり、税理士や社労士へと繋ぐことが多かった。ただし、具体的に税理士や社労士に相談する場合には費用が必要とお伝えしており、その後どうなったかについての追跡はできていない。

委託業務等内での相談対応他

相談件数　58 件

・助成金の応募について

・法人の設立について

(3)まちづくりサロン

「新書 de 読書会」

2022 年度も毎月第 3 月曜日（祝日の場合は前後で設定）を基本に定例開催した。2016 年度から始めて、2023 年 3 月の開催で 77 回を数えた。当初まずはやってみようと始めたことが 7 年目に入り、参加者も安定的になってきている。今後も多様なテーマや多彩な話題提供者による読書会を展開していきたい。

①2022 年 4 月 18 日（月）19：00～20：30

課題本：リベラルとは何か　著者：田中拓道　出版社：中公新書

②2022 年 5 月 16 日（月）19：00～20：30

課題本：歴史修正主義　著者：武井彩佳　出版：中公新書

③2022 年 6 月 20 日（月）19：00～20：30

課題本：江戸の学びと思想家たち　著者：江本雅史　出版：岩波新書

④2022 年 7 月 25 日（月）19：00～20：30

課題本：ブルシット・ジョブの謎　著者：酒井隆史　出版：講談社現代新書

⑤2022 年 8 月 22 日（月）19:00～20:30

課題本：人新世の「資本論」　著者：斎藤幸平　出版：集英社新書

⑥2022 年 9 月 26 日（月）19:00～20:30

課題本：くじ引き民主主義　著者：吉田徹　出版：光文社新書

⑦2022 年 10 月 17 日（月）19:00～20:30

課題本：「新しさ」の日本思想史　著者：西田知己　出版：ちくま新書

⑧2022 年 11 月 21 日（月）19:00～20:30

課題本：22 世紀の民主主義　著者：成田悠輔　出版：SB 新書

⑨2022 年 12 月 19 日（月）19:00～20:30

課題本：世界インフレの謎　著者：渡辺努　出版：講談社現代新書

⑩2023 年 1 月 16 日（月）19:00～20:30

課題本：資本主義から脱却せよ　編者：松尾匡・井上智洋・高橋真矢　出版：光文社新書

⑪2023 年 2 月 20 日（月）19:00～20:30

課題本：揺れる大地を賢く生きる　著者：鎌田浩毅　出版：角川新書

⑫2023 年 3 月 13 日（月）19:00～20:30

課題本：学問と政治　著者：芦田定道・宇野重規・岡田正則・小沢隆一・加藤陽子・松宮孝明　出版：岩波新書

(4) 明治ホールディングスお菓子寄贈　団体推薦

明治ホールディングスおよび同株主より社会貢献活動の一環として、明治グループの製品（お菓子）の寄贈が全国約 300 か所で行われるに当たり、日本 NPO センターが事務局を担っている。日本 NPO センターから各都道府県の中間支援センターへ、お菓子寄贈にふさわしい対象団体の推薦依頼があり、それに対応した。対象団体は「(1) 障がいのある子どもを対象とした活動を行っている団体」「(2) 自然災害の被災地支援活動をしている団体（子どもを含む地域住民支援）」「(3) 自然災害の広域避難者を支援している団体（子どもを含む地域住民支援）」「(4) 東日本大震災の被災地支援、広域避難者支援をしている団体（子どもを含む地域住民支援）」となっており、滋賀県から 4 団体を推薦した。

２　地域コミュニティ支援のための情報提供、相談･コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業

⑴情報提供

地域コミュニティ、特にまちづくり協議会に対する中間支援に必要なメニューをとりまとめ、今後の相談対応時のコンテンツとして使えるように整理した。必要に応じて情報が提供できる体制にある。

⑵まちづくり協議会計画策定支援

草津市協働コーディネーターとして、草津市笠縫学区の「まちづくり計画」二期の見直し支援を行った。第一期の 2 次計画の作成事務局を担った延長だが、今回もまちづくり協議会が策定検討委員会を設置し、コミュニティ事業団とともにアドバイザーとして加わった。学区内アンケート（一部スマホでの実施試行）を含め、6 回の委員会で見直しを行った。また前回作成した地域カルテの改定サポートも行った。

３　協働推進

(1) 行政との協働

草津市協働のまちづくり推進支援業務　（受託事業）

①協働推進サポート業務

協働のまちづくりを推進するために、まちづくり協議会および市民公益活動団体の動向を見据え、協働事業の展開および市民公益活動のさらなる環境整備に向け、専門的な助言を行った。

・市民参加・協働のまちづくり推進評価委員会運営への助言、および協働事業調査や協働評価シートの見直しなど、協働の進め方についての展開手法の提案やサポート支援を行った。

・市民公益活動団体やまちづくりに関する諸機関からの相談対応を行った。

②ラウンドテーブルの企画運営及び協働事業創出に向けてのコーディネート業務

「ラウンドテーブルくさつ」を企画運営し、多くの市民公益活動団体の参加を促すとともに、協働事業創出への道筋をつけた。

・ラウンドテーブルの企画・運営を行った。（7 回）

・ラウンドテーブル運営会（世話人会）を開催した。（5 回）

・ラウンドテーブルの運営実施及び結果の報告としてニュースを作成した。（7 回）

・ラウンドテーブルの次のステップとして、マッチングテーブルを開催し、提案事業に対する各団体・各部局とのコーディネートのサポートを行い、協働事業の創出を図った。

③交流会の開催業務

キラリエサポーター・まちづくり協議会などを中心とした市民活動団体の交流会の企画・運営を行った。

日時：2023 年 1 月 21 日（土）13：30～17：00

講話：「保津川における地域協働のかたち」

講師　豊田知八さん　プロジェクト保津川副代表　保津川遊船企業組合代表理事

活動報告：山田学区まちづくり協議会

「山田学区まちづくり協議会の公式ＬＩＮＥの取り組み」

体験農園ぱたぱたふぁーむ

「ぱたぱたふぁーむ『開園前～開園～現在までの奇跡/軌跡』」

草津川跡地公園マネジメント・パートナーズ

「草津川跡地公園の市民活動『くさねっこ』について」

終了後交流会

参加者：50 名程度

④「協働ひろば」の運営サポート

市民総合交流センター内の「協働ひろば」運用にあたって、コミュニティ事業団と協力しながら環境整備を行い、多くの団体に利用してもらえるようにした。

⑤キラリエ草津空間・機能デザインの検討業務

キラリエ草津が利用者にとって利用しやすい施設になり、施設全体が活性化するよう主に 5 階協働ひろばや 1 階ロビーについて、キラリエサポーターや利用者の意見を反映させながら空間イメージや利用ルールなどをまとめた。

・市、事業団、指定管理者などで検討委員会を設置
・入居団体へのヒアリング
・協議結果に基づき何カ所かの必要備品の設置や既存備品の運用の見直し

⑵企業・団体との協働

①平和堂財団　環境保全活動助成事業「夏原グラント」（受託事業）

コロナ感染の状況が不安定であるものの、各団体には活動に当たってどのようなことに留意すべきかといったノウハウが蓄積されてきている。運営側も同じく、ポイントを押さえつつ複数案を持ちながら柔軟に対応する方法が、スムーズに行えた。昨年度は交流会が6会場での予定のところ2会場しか開催できなかったが、2022年度は予定通りに実施することができた。

2022年度は、夏原グラントの助成が始まって10年が経過したことから、記念事業に取り組んだ。始まった当初のことを思えば認知度は高まってきており、団体の活動が地域の中で大きく広がっているという話も聞こえてきている。そこで、助成金が環境保全活動に貢献していることを多くの方々に知ってもらうことを目的に、ＰＲ用の動画を作成した。完成後はHPへの掲載、報道機関への情報提供、各種団体への告知などを行った。

夏原グラントの運営事務局をNPO法人まちづくりスポット大津へ移行するにあたり、具体的な取組を始めた。例えば事務局内での進行会議への参加、事業報告書のチェック作業、募集要項の作成、スライド動画作成の確認、活動訪問への同行、プレゼンテーション・選考委員会の進行補助などである。少しずつ量を増やしながら移行を進めていきたい。

訪問による活動レポートの作成とホームページサイトでの情報発信、報告書の作成などについては従来通り実施した。

ｉ　助成団体

・一般助成1年目　16団体　　助成金総額　　5,783,000円
・一般助成2年目　16団体　　助成金総額　　5,405,000円
・一般助成3年目　10団体　　助成金総額　　3,640,000円
・ステップアップ助成　2団体　　助成金総額　　1,000,000円
・ファーストステップ助成1年目　9団体　　助成金総額　　900,000円
・ファーストステップ助成2年目　8団体　　助成金総額　　780,000円
計　　61団体　　17,508,000円

2022年度助成金対象団体については2021年度中に選考委員会を実施している。

選考委員会は一般1年目1次選考のみ非公開の書類選考で2次選考に進む団体を決定、一般1年目2次・一般2年目はプレゼンテーションと選考委員会、一般3年目は個別ヒアリングを行い取りまとめた結果を選考委員会で報告、ステップアップ助成1年目は書類審査、2年目は選考委員によるヒアリングで採否を決定した。プレゼンテーションは公開ではなく、関係者のみの実施であった。ファーストステップ助成は1年目・2年目ともに、書類確認の上、採否を決定した。2022年度はステップアップ1年目に6団体からの応募があったが、選考基準に照らし合わせて選考を行った結果、採択となる団体はなかった。

2022 年度の助成金対象団体数と助成額は以下のとおりである。

＜一般 1 年目＞

団　体　名	事　　業　　名	助成金額
東草野炭焼き文化保存会	山の手入れと地元の紹介イベントを通じた地域環境の活性化	350,000
オーガニック土の塾	遊んで学ぼう　里山東笠取	250,000
京都発・竹・流域環境ネット	竹林の整備による放置竹林の発生防止と景観保全	250,000
コナラ会	けいはんな記念公園における里山管理事業	400,000
スモールファーマーズ	持続可能な集落棚田のための環境保全型ネオ・スモールファーマー発掘プロジェクト	500,000
雲ケ畑・足谷　人と自然の会	ボタン科ボタン属ヤマシャクヤクの保全	500,000
西の湖自然楽校	西の湖自然楽校	400,000
吉田山の里山を再生する会	吉田山の自然環境を保全・整備し人々が集い楽しめる里山に再生する事業	400,000
未来生物学研究所	滋賀県の河川・湖沼等の環境保全及び環境問題の解決を目的とした最新科学技術の活用と地域環境問題解決	300,000
Woodstick　上桂川を守る会	在来種を育む水辺づくりと交流型イベント	400,000
地球とあそぶひみつきち	地球とあそぶひみつきち	300,000
みどりの会伏見桃山	森の保全及び公園の清掃活動	282,000
京都市環境保全活動推進協会	「わきの山」における持続可能な里山利用にむけたゾーニングの検討及び実施	350,000
林業女子会@京都（花背支部）	花背の森ガタリ～土地に根ざした学びの場	400,000
結いの里・椋川	環境学習・環境保全活動支援のための「高島の田んぼの生きもの図鑑」の作成と活用	401,000
彦根ブナの会	彦根ブナの会　植樹活動	300,000

＜一般 2 年目＞

団　体　名	事　　業　　名	助成金額
森のようちえん　どろんこ園	森のがっこう 2022	400,000
沖島里山保全の会	ニホンミツバチの蜜源の谷づくり事業	350,000
下阪本子どもコミュニティー	下阪本クリーン作戦＆シジミ放流	400,000
西山自然保護ネットワーク	小塩山カタクリ保護地へのイノシシ侵入防止対策	220,000
加茂女	里山からワサビ畑の復活をめざす	500,000
自然観察指導員京都連絡会	特定外来種のオオハンゴンソウ駆除で美しい花背の自然と生態系を守る	500,000
レイカディアえにしの会	芦浦観音寺竹林整備プロジェクト	95,000
オランダ堰堤および周辺の環境を守る会	ミツバチ花いっぱいプロジェクト	400,000
西の湖あそび隊	西の湖おはなしあそび　西の湖を感じる展覧会	350,000

国際ボランティア学生協会	大学生の熱意で琵琶湖や鴨川を侵略的外来種から守ろう	400,000
志賀郷ゴキゲン化計画	小さな谷の小さな暮らし―自然とつながり生きる力を育むワークショップ	500,000
比良雪稜会	比良山系の清掃登山（クリーンハイク）及び飲み水水質調査と放射線測定	60,000
こにゃん木の駅プロジェクト準備委員会	湖南市産バイオマス燃料製造プロジェクト	250,000
TANAKAMI こども環境クラブ	山を守る　ごみ拾い調査とその解決法を探る	280,000
宇治きこりの会	市民が楽しめる　豊かで元気な　森育て　をすすめよう！	400,000
チームむべなるかな	琵琶湖水鳥観察会とむべなるかな里山探索会	300,000

＜一般３年目＞

団　体　名	事　　業　　名	助成金額
滋賀県レイカディア大学同窓会大津支部	大津市内小学校の緑化・美化活動	300,000
明日の走井を考える会	みんなで創る走井（はしり）の里	400,000
志津南『芝桜プロジェクト』	草津市志津南地区内調整池等の雑草地整備	200,000
上宮津・杉山エコガイドの会	道普請ツアーと東屋つくり	460,000
横山はらっぱ倶楽部	横山森林公園の活性化	300,000
八島里山づくり委員会	八島ふれあいの森づくり（世代をつなぐ里山の保全管理活動）	400,000
フィールドソサイエティー	広げよう！森林環境学習活動	480,000
亀岡人と自然のネットワーク	希少種の保全　ヤマトサンショウウオの生息環境保全	400,000
棚田・里山・古代米・鮒プロジェクト	棚田・里山・古代米・鮒プロジェクト	400,000
美土里ファーム・コミュニティファーム実行委員会	京都・滋賀でのコミュニティファームの設立	300,000

＜ステップアップ助成＞

	団　体　名	事　　業　　名	助成金額
２年目	志津南環境美化ボランティアの会	緑の手入れを通じての“高齢者支援対策”と“空き家対策”	500,000
２年目	こそだてママ net☆	森のようちえんプレ事業	500,000

＜ファーストステップ１年目＞

団　体　名	事　　業　　名	助成金額
もりのもり	土倉の巨木林保全活用事業	100,000
SYK 重利夢工房	里山保全と環境美化	100,000
あおむしくらぶ	大人も子どもも楽しく学べる『川の生き物探索隊』	100,000
藪の竹ぼうき	バンブードームを作って竹工作を楽しもう！	100,000
21 くろやま塾	21 くろやま塾活動	100,000
大宮の森　もぐらの会	森と遊ぼう！大宮 Lab	100,000
FootRoots	びわ湖発のプラスチックリサイクルによる活動	100,000
今郷棚田集落協定	今郷棚田における自然環境の保護・保全活動	100,000

＜ファーストステップ２年目＞

団　体　名	事　　業　　名	助成金額
海浜植物守りたい	絶滅危惧種・希少種に指定されている野生植物の保護・保全活動	80,000
まるやまの自然と文化を守る会	まるやまの自然と文化を次代につなぐ	100,000
岩脇まちづくり委員会	岩脇自治会内の環境保全及び保有施設を活用した事業の展開	100,000
朽木野鳥を守る会	朽木野鳥を守る会	100,000
天引区の活性化と未来を考える会	希少生物をはぐくむ石積水路の補修と放置柿の採取による獣害防止と景観保護　事業	100,000
小森クラブ	野外でとことん遊ぶ小学生倶楽部　～農業体験、火起こしを通じて～	100,000
東近江さとやまNannies	東近江里山保育推進と里山保全学習事業	100,000
滋賀サイエンスカフェ実行委員会	サイエンスカフェ	100,000

ⅱ　贈呈式

2022年度も出席者を１団体１人に限定し､贈呈式終了後の交流パーティを開催しない形で実施した。一般・ステップアップ助成団体を対象に、平和堂財団の理事長より目録が贈呈され、その後は2021年度の活動の中から３団体による活動報告を行った。

終了後は、選考委員との昼食交流を開催した。

2022年４月16日（土）10:00～12;00

クサツエストピアホテル　瑞祥の間

ⅲ　市民環境講座

環境保全活動を進めていくための専門的な知識や組織運営について学ぶ場として市民環境講座を開催した。選考委員に講師を依頼した。一般１年目とファーストステップ１年目の採択団体は、出席を必須とした。

会議室内が密にならないよう、団体からの参加者を２名以内と限定して開催した。

第１回　2022年６月19日（日）13:30～15：30　参加者：36名

滋賀県立県民交流センター207

「環境保全活動で気をつけたいポイント」

講師：西野麻知子さん

第２回　2022年７月30日（土）13:30～15：30　参加者：36名

滋賀県立県民交流センター207

「効果的な活動のために」

講師：内田香奈さん

ⅳ　ファーストステップ１年目団体オリエンテーション

ファーストステップ団体は贈呈式に参加しないことから、夏原グラントの全体スケジュールや活動開始に当たっての注意点、事務手続きの方法などについて伝える場としてオンラインで実施した。オリエンテーションが実施されないと、お互いの顔を知らずに進めることになってしまうので、重要な機会となっている。

2022年４月28日（火）19：00～19：30

ⅴ　交流会

全団体を対象に交流会を開催した。6 会場を準備し、日時・場所から希望を聞き参加してもらうこととなった。交流の機会がほしいとのことで複数会場の参加を希望する団体もあった。

会場ごとに選考委員・平和堂財団からも参加してもらい、団体との交流を深めていただく場ともなった。参加団体からは、同じ地域で活動している団体を知ることができた、一緒に活動できることがあるのではないかと思えた、困っていることを話せる場となってうれしい、他団体の悩みの声を聞き同じようなことがあると思えて心強かったなどの声があり、交流会の目的を達成できたと感じた。

2022 年 8 月 18 日（木）13：30～16：00　Viva City 研修室

2022 年 8 月 22 日（月）13：30～16：00　ひとまち交流館京都 第 4 会議室

2022 年 8 月 27 日（土）13：30～16：00　滋賀県立県民交流センター 305

2022 年 9 月 3 日（土）13：30～16：00　ひとまち交流館京都 第 4 会議室

ⅵ　ファーストステップ団体ヒアリング

ファーストステップ助成では、終了後に一般助成へ応募することを必須としている。4 月からの活動状況を確認しながら、次年度どのように対応していくかについて個別のヒアリングを、1 年目団体と 2 年目団体に分けて、全団体対象に実施した。昨年度の会場とオンラインのどちらかを選んで参加する方法で実施した。30 分のヒアリングに対して往復時間がかかる場合などにはよい手段として利用してもらえている。

1 年目団体：2022 年 11 月 5 日（土）10:00～16:30

草津市立市民総合交流センター　504・オンライン

2 年目団体：2022 年 11 月 12 日（土）10:00～17:00

草津市市民交流プラザ　小集会室 3B・オンライン

ⅶ　ステップアップ講座

一般助成は 3 年まで継続が可能となっているが、組織基盤強化に取り組む団体に対して 3 年目終了後に、ステップアップ助成の枠組みがある。ステップアップ助成では環境保全活動と組織基盤強化を同時に取り組むことになるが、この組織基盤強化策をどのように構築するか、それを応募書類にどのように書きこむかなどについて説明し、事業企画の相談に応じるステップアップ講座を開催した。ステップアップ助成の説明と組織基盤強化の考え方についての講話、それぞれの団体の個別ワークを実施した。参加団体によって課題が異なるため、スタッフが個別に相談対応した。

対象となる一般助成 3 年目団体に次年度の意向を確認しているが、まだ方針が固まっていない団体も参加している。

2022 年 10 月 29 日（土）13:30～16:00

滋賀県立県民交流センター　301　　参加：4 団体

ⅷ　活動訪問

一般助成 1 年目団体の活動現場を訪問し、取材を行った。訪問した内容を写真と文章でホームページサイトに掲載して情報発信した。この訪問を通じて団体との関係性が構築できるとともに、活動内容だけではない情報も収集できき、以降の相談対応等に活かすことができている。

昨年度、天候などの都合でイベントが延期になるなど日程が合わずに訪問できなかった団体は、今年度一般助成 2 年目ではあるが訪問している。

訪問団体数　18 団体

ⅸ　運営で工夫をしている団体への取材

夏原グラントの助成を受けて活動していた事業が、その後どのように展開されているか、また団体の組織運営はどのようになっているかなどについてヒアリングを行った。記事としてまとめ、ホームページに掲載した。

取材先　山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会、比良里山クラブ

ⅹ　活動報告書

団体の活動内容を取りまとめた報告書として、A4 サイズで 1000 部作成。1 事業あたり A4 サイズの 1/3 スペースで、一般助成採択団体のすべての事業を掲載している。広報ツールとして応募を検討している団体などへの情報提供用として積極的に配布した。

ⅺ　10 周年記念動画

夏原グラントの助成が始まって 10 年が経過したことから､助成金が環境保全活動に貢献していることを多くの方々に知ってもらうことを目的に、ＰＲ用の動画を作成した。今まで活動訪問の際に撮った写真を中心に、わかりやすく見てもらえるように工夫して、スライド動画を作成した。10 年間の歩みを確認するために助成団体数や助成金総額などをまとめたが、その積み上げた大きさに改めて気づくことができ、運営側としても意義ある取組だった。

ⅻ　説明会・事前相談会

夏原グラントへの応募を考えている団体を対象に、募集要項作成後に説明会を実施した。説明会終了後には事前相談会を設定し、応募についての質問や相談に応じた。ファーストステップ団体には、積極的に参加を呼びかけた。昨年に引き続きオンライン相談会を実施したが、期間を決めて好きな時間で第 3 希望まで出せる方法を試みたところ、昨年の倍以上の申し込みがあった。一定期間中とはいえ、都合のよい時間が選べる方法は、参加のハードルが低かったのかもしれない。今後も、参加する側の立場に立った方法を考えていきたい。

・京都会場　　2022 年 11 月 25 日（金）　参加：3 団体
・草津会場　　2022 年 11 月 27 日（日）　参加：2 団体
・大津会場　　2022 年 11 月 30 日（水）　参加：3 団体
・彦根会場　　2022 年 12 月 2 日（金）　参加：6 団体
・京都会場　　2022 年 12 月 11 日（金）　参加：6 団体
・オンライン　　計 14 団体

ⅹⅲ　2023 年度助成にかかる準備

2023 年度活動の対象となる助成事業の応募から選考にかかる一連の業務について､2022 年度内に準備を進めた。ⅻの説明会・事前相談会も、その一環である。

具体的には要項作成、説明会・事前相談会、応募受付、団体ヒアリング、選考委員会・公開プレゼンテーションなどである。

選考会・公開プレゼンテーションの日程は次の通り。

一般助成 1 年目

1 次選考（書類選考）：2023 年 2 月 22 日（水）10:00～12:00

2 次選考（プレゼンテーション・選考委員会）：2023 年 3 月 12 日（日）9:30～17:00

一般助成 2 年目

プレゼンテーション・選考委員会：2023 年 3 月 18 日（土）9:30～16:30

団体ヒアリング日程は次の通り。

一般助成3年目団体対象：2023年2月16日（木）10:00～15:00
2022年2月18日（土）10:00～15:30

採択団体数は次の通り

一般助成1年目　17団体、一般2年目　14団体、一般3年目　14団体

ファーストステップ1年目　15年目、ファーストステップ2年目　8団体

②生活協同組合コープしが　できるコトづくり制度（受託事業）

一人ひとりが持つ「想い」や「願い」が結びつき、誰もが安心してくらし続けることができる地域社会を実現していくための支援として創設された「できるコトづくり制度」の運営事務局を引き続き担った。

講座は昨年度同様、会場とオンラインでの開催を分けて実施した。今年度は、活動している団体からの事例発表を取り入れて開催する講座を1講増やしたところ、とても良い内容で実施できた。ただ、参加者が少なく残念な結果となった。次年度に向けて、日時などを含めた開催方法や広報について、多くの方に参加していただけるように工夫していきたい。

活動訪問とレポート作成・専用ホームページサイトへの公開、ホームページサイトの運営などについては引き続き実施し、2023年度に向けた助成金の募集・審査会運営、説明会、団体からの相談対応などを行った。

ｉ　2022年度採択団体

・はじめて助成　1年目　5団体
　　2年目　4団体　　助成金総額　　900,000円

・活動助成　1年目　3団体
　　2年目　3団体
　　3年目　2団体
　　助成金総額　　2,270,000円

計　　17団体　　3,170,000円

審査にかかるプレゼンテーションは、5名の審査委員のうち1名はオンラインでの参加、4名は団体が発表する会場での審査となった。審査では公平性が重要であるため、映像・音響のトラブルがないよう、また質疑応答がスムーズに行えるよう、外部から当日の機器類設置やアクセス、誘導など技術的なサポートをお願いした。

2022年度の助成金対象団体数と助成総額は以下のとおりである。

＜はじめて助成＞

1年目

団　　体　　名	事　　業　　名	助成額
フードバンクまいばら	フードバンク	100,000
立入農活くらぶ	田んぼや畑で農業体験、地元の小さな畑を地域で活用	100,000
リボンカフェ（RIBBONCAFÉ）	bc-life　セルフチェックキャラバン	100,000
Petit Refrain	プチ・ルフラン＝小さな循環	100,000
くぬぎの森自然遊び広場＆山の暮らし学校	くぬぎの森自然遊び広場＆山の暮らし学校	100,000

2年目

団　　体　　名	事　　業　　名	助成額
小森クラブ	水を知ろう！水で遊ぼう！	100,000
TERAコミュニティー鳥羽上	地域学童保育と集いの場	100,000
ママミーティング部	ママミーティング部	100,000
ぷらっとカフェコンサートプロジェクト	地域によりそう芸術	100,000

＜活動助成＞

1年目

団　　体　　名	事　　業　　名	助成額
彦根にほんご教師会	子どもにほんご教室　JUMP	170,000
食物アレルギー対応子ども食堂 スマイルシード	ネットシステムを利用して食物アレルギー親子の食育及びメニュー開発支援活動	300,000
みんなのもうひとつのおうち「キュルア」	学校に行きづらい子ども達とご家族の居場所づくり	300,000

2年目

団　　体　　名	事　　業　　名	助成額
若者自立支援ボランティアGroup居場所の会「レリーフ」	社会参加を模索する若者への支援活動	300,000
地球ハートヴィレッジ	地球を愛する衣食住DIY生きる学び塾	300,000
Moms fun	本でつながるこそだて応援事業	300,000

3年目

団　　体　　名	事　　業　　名	助成額
ぼてじゃこトラスト	滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ､楽しく遊び、学ぶ親子自然体験教室	300,000
特定非営利活動法人　カズン	地域のつながりで食品ロスを減らす	300,000

ⅱ　スタート集会

2022年度のスタート集会は会場で開催した。全体スケジュールや活動を始めるにあたっての注意点などについて説明した後、各団体から団体の自己紹介と取り組む活動について紹介をしてもらった。その後はグループに分かれて、意見交換・情報交換を行った。久しぶりの対面での交流に、みなさんが楽しそうに話しておられ、終わってからもあちらこちらで分かれて話し込んでいる様子が印象的であった。オンラインは便利でありできたこともたくさんあるが、対面で交流することの意義や大切さを改めて感じた。

2022年4月24日（日）10：00～12：00　参加者26名

ⅲ　講座

「こんな活動があれば暮らしやすいのに」「困っている人をみんなで支えたい」「自分や仲間の力を地域で活かしたい」など、活動への関心を寄せている方々を対象に、社会の現状と課題や活動への取り組み方法などについて考える場として開催した。2022年度の新規内容として、活動している方の事

例発表をしていただく回を取り入れた。1 回に 2 団体の発表で計 4 団体から事例発表をしていただいた。共感を得る内容で、質疑応答では苦労されたことやありのままの姿が伝わるような話を聞くこともできた。参加者が少なかったのが残念だった。講座全体を通しても参加者は少なめであったため、今後や日時を含めた開催方法や早めの広報に努めていきたい。

第 1 回：「活動の始め方」

2022 年 9 月 9 日（金） オンライン　参加者 3 名

2022 年 9 月 17 日（木） G-NET しが　参加者 5 名

動画再生回数　5 回

第 2 回：「活動資金のいろいろ」

2022 年 9 月 23 日（金・祝）草津市立市民総合交流センター　参加者 3 名

2022 年 9 月 30 日（金）オンライン　参加者 4 名

動画再生回数　2 回

第 3 回：「実際の活動からのヒント　滋賀県の活動団体紹介」

2022 年 10 月 10 日(月・祝)　G―NET しが　参加者 3 名

NPO 法人くさつ未来プロジェクト、NPO 法人さんまクラブ

2022 年 10 月 15 日(土)　草津市立市民総合交流センター　参加者 5 名

一般社団法人異才ネットワーク、八日市おかえり食堂

第 4 回：「活動計画書・予算書づくり」

2022 年 10 月 22 日(土)　G―NET しが　参加者 1 名

2020 年 10 月 28 日（金）　草津市立市民交流プラザ　参加者 4 名

それぞれの回でのアンケートで「頭の中で考えていたことが少し整理できました」「助成金をどういった時にこそ受けるべきなのかがよく理解できました」「立ち上げた方のエネルギーがすごいなと思いました」「自分が皆に伝えたいことが、よりはっきりイメージできました」などの感想が寄せられた。

iii　活動訪問

採択された団体を訪問し、活動について取材を行った。それをまとめ、専用ホームページサイトに掲載した。

iv　説明会・相談会

応募を考えている団体を対象に、募集要項作成後に説明会を実施した。説明会終了後の相談会では応募にかかる質問や相談に応じた。会場での開催と、日時を指定してその中から自由に選べるオンラインによる相談を行った。オンライン参加者の満足度は高く、今後の相談会・説明会の実施方法についてヒントが得られた。

会場開催

第 1 回：2022 年 11 月 16 日（火）G-NET しが　参加 4 団体

第 2 回：2022 年 11 月 19 日（土）草津市立市民総合交流センター　参加 3 団体

第 3 回：2022 年 12 月 20 日（火）草津市市民交流プラザ　参加 8 団体

オンライン開催

第 1 回：2022 年 11 月 23 日（水）参加 1 団体

＊第 2 回は申し込みがなかったため開催せず

個別相談対応

新規に応募したい団体・個人からの相談　10 件

現在助成を受けている団体からの相談　2 件

v　専用ホームページサイトの運営

団体訪問の取材記事、講座や助成金情報を掲載して広報を行った。応募についての相談では、ホームページサイトから知ったということがあった。今後も、適宜タイミングを合わせた情報発信をしていきたい。

vi　2023 度助成にかかる準備

2022 年度活動の対象となる応募から審査について、2022 年度内に準備を進めた。iv の説明会・相談会も、その一環である。

具体的には申込みガイド（募集要項）作成、説明会・相談会、応募受付事務、プレゼンテーション・審査会の運営、ホームページへの情報掲載などである。

審査会は、2023 年 2 月 26 日（日）に開催した。2023 年度採択に向けての審査会は審査員が 1 名増となった。3 年ぶりに審査員全員が会場参加となり、活発な質疑応答が行われた。

③大和リース　まちづくりスポット大津

大和リース（株）が商業施設を建設・運営する「ブランチ大津京」内に全国で展開している「まちづくりスポット」だが、2020 年 10 月に新法人「まちづくりスポット大津」が立ち上がったので、2022 年度も引き続きアドバイザーという立場で支援を行った。

まちづくりスポット大津への支援内容は主に次のとおりである。2022 年度はスタッフの入れ替わりがあったので、スタッフ研修を行った。

・「わかばサロン」においての相談対応

・主催する講座・ワークショップなどでの助言

・事業の企画アドバイス、進捗管理、および実施時の支援

・スタッフ研修 8 回

（ＮＰＯ・中間支援・協働・まちづくりなど基本的な内容について）

・経理・労務などに対する支援

・多忙時におけるハッシュタグ運営の人員サポート　　など

NPO 法人「まちづくりスポット大津」の組織が確立されているので、しが NPO センターが培ってきた専門的な知見・スキルを提供する立ち位置とし、スタッフが「今やっていること」の意味や価値に気づくようなアドバイスを心がけてきた。

大和リースとは、毎月で行っている定例会議にアドバイザーとして参加し、情報を共有した。

⑶役員・職員が関わる委員会等

しが NPO センターとして組織的に取り組んでいるものではないが、役員や職員が行政・団体の委員会の委員等に次のとおり出席・出講した。

・ひとまちキラリまちづくり活動助成審査会（公益財団法人草津市コミュニティ事業団）　副審査員長　開催 1 回

・栗東市協働事業提案審査委員会　委員長・委員　開催 2 回

・守山市市民提案型まちづくり支援事業審査委員会　委員長　開催 1 回

・事業指定寄付制度にじまちサポーターズ（まちづくりネット東近江）　委員　開催２回
・「栗東市元気創造まちづくり事業」サポート講座　ワークショップ講師　開催１回
・公益財団法人滋賀県市町村振興協会懇話会　委員　開催２回
・草津市景観審議会　委員　開催１回
・栗東市市民参画等推進委員会　委員　開催２回
・守山市市民参加と協働のまちづくり推進会議　副委員長　開催３回
・東近江市景観審議会　委員　開催１回
・彦根市福祉保健部・子ども未来部指定管理者候補者選定委員会　委員　開催１回
・長浜市市民協働推進会議委員　委員長・副委員長　開催　開催２回
・東近江市わくわく市民活動支援補助金審査会　委員　２回
・長浜市市民活動団体支援事業審査会　委員　１回

４　調査研究事業・政策提案

(1)コラム発信

2013 年 6 月より、NPO を取り巻く環境や課題、また時々の社会的な問題などについて、HP サイトでコラムとして発信している。2022 年度は 1 か月に 1 回、計 12 回リリースした。

2022 年 4 月　戦争は誰も幸福にしない
5 月　今こそ外交力が問われている
6 月　行政経営という言葉がもたらしたもの
7 月　物価上昇の影響は大きいが危機感がないのでは
8 月　安倍政権をどのように評価するか
9 月　東日本大震災からの復興とは
10 月　安倍国葬とは何だったのか
11 月　日本売りが止まらない
12 月　統一教会被害者救済と寄付規制
2023 年 1 月　この国はどこへ向かおうとしているのか
2 月　異次元の少子化対策にどこまで期待できるか
3 月　マイナンバーカード

(2) 孤独・孤立対策への取組み

①CEO 会議・孤独孤立対策タスクチームへの参加

2022 年度は前年に引き続き、オンラインによる孤独孤立対策チームでの意見交換、政府への働きかけを行った。

内閣官房孤独・孤立対策担当室から政府の施策の情報提供を受けるとともに、新たに地方での動きに対し、それぞれの自治体に関係 NPO が働きかけ等を行うことが確認された。

②滋賀県版孤独・孤立対策推進プラットフォームへの参加

滋賀県が地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業に手を上げたことを知り、県健康福祉政策課への情報収集を行った。

その後、県から滋賀県版孤独・孤立対策推進プラットフォームへの参加呼びかけがあり、参加するとともに、2 月 8 日に開催された「つながることで見えるちょっと素敵な未来を描くフォーラム」に出席した。

(3)休眠預金の現状と課題勉強会への参加

休眠預金の動きに関しては、これまで市民活動センター神戸の実吉威さんを講師に呼んで情報収集を行ってきたが、実吉さんからの誘いで、10 月 5 日開催された日本民間公益活動連携機構（JANPIA）の休眠預金等活用助成第三者評価アドバイザーをされている津富宏さん（静岡県立大学教授）を講師としたオンライン勉強会に参加した。

(4) NPO・市民活動支援共有ミーティング（通称「わくわく会議」）への参加

NPO・市民活動支援の担い手が、地域や立場の垣根をこえて情報交流することを通して社会ニーズや共通課題に対するアクション、市民セクターのボトムアップを図ることを目的に2021年12月からスタートしたわくわく会議に、6月から参加した。

わくわく会議は、偶数月の第１木曜日の午後開催され、協働や孤独・孤立対策などの諸課題をテーマに参加者によるオンラインでの議論を行ってきた。

5　災害ボランティアコーディネート事業

(1)「災害支援市民ネットワークしが」の運営

①「災害支援市民ネットワークしが」

2013 年度に、滋賀における市民の災害対応力を高め、行政や社会福祉協議会等と連携しながら、災害発生時のボランティア派遣、ボランティアセンター運営支援、ボランティアコーディネート等の災害支援活動、平時における防災活動の啓発などを行うことを目的に構築されたネットワークである。災害時に互いに声を掛け合うことができる関係を築くことも大きな目的である。県内外での災害時に災害ボランティアセンター運営支援やコーディネート、独自の情報発信などができることを目指し、しが NPO センターが事務局を担っている。

研究会・セミナー等へは会員外にも声をかけるオープンな形態としている。2022 年度当初の会員は、団体会員：18 団体、個人会員：62 人であった。

総会日時　　2022 年 4 月 25 日（月）13：30～14：00

開催場所　　草津市立市民総合交流センター303　　参加者：10 名

総会終了後、被災後にボランティアセンターが立ち上がったと想定して、発生した問題にどのように対応するかをグループごとに考えるワークを行った。問題にはこれこそが正解というものはないが、その場の人々が話しあうことが重要と改めて確認できる場となった。

②研究会

災害支援市民ネットワークしがが主催する研究会として、テーマを設定し開催している。2022 年度は、今までに取り組んでいない切り口をテーマとして取り上げた。講師の話は具体的な内容で、貴重な情報もあり、参加者の満足度は高かった。

ⅰ　第 1 回：2022 年 6 月 7 日（火）13：30～16：30　参加者：25 名

「災害からの住居の再建に向けて」

講義＆ワーク講師：前原土武さん（災害 NGO 結代表・技術ボランティア）

「技術ボランティア」は専門性の高いボランティアで技術を復旧・復興に提供する以外に、被災者の安全･安心へ貢献することが必要。復旧作業に含めてリフォームなのか新築なのか、引っ越しなのか、など復旧の費用負担を減らし、家族の向かう方向性を話し合う機会が提供されるべき。

後半のワークショップでは参加者が家の模型を見ながら、特に水害時の対応について学んだ。再建の手順は①家屋内の家財出し　②家屋内の土砂出し　③敷地内の土砂出し④壁や床板の撤去　⑤床下や壁内の断熱材の撤去　⑥床下の土砂出し　⑦乾燥・消毒。それぞれに、大事なポイントがありそれらを学ぶ機会となった。

ⅱ　第 2 回：2022 年 8 月 5 日（金）13：30～16：30　参加者：22 名

「女性の視点に立った防災・災害支援」

講義＆ワーク講師：相川康子さん（NPO 政策研究所専務理事）

従来の家族の姿は大きく変化しているが、防災計画や防災研修にはその視点を取り入れていないという問題提起があった。災害マニュアルに人権の視点をいれることも重要だが、発想を変えて「マニュアルに頼らず『各自の対応力』を高める」ことが必要とのこと。そして

マニュアルにとらわれ過ぎず、災害を発生・救出・復旧・復興の長い過程で捉えて多様な人がその場で知恵を出し合って乗り越えていくことが重要。

ワークショップでは「防災を特別なことにしないこと」「日常生活や地域の行事の中に防災の要素を上手く組み入れること」「楽しく長続きするアイデアであること」などのポイントを踏まえた具体的な取組アイデア出しを行った。

iii　第3回：2022年10月21日（金）13：30～16：00　参加者：11名

「災害協定と企業が取り組む災害支援」

話題提供者：須戸吉弘さん（中島商事　取締役営業部長）

滋賀県健康福祉部健康福祉政策課講師

物資備蓄の定義は狭い意味では保存をすることだが、広義の意味では流通を含めて考える必要があり、滋賀県での備蓄品は7カ所で分散保管していて想定数量は99,000人分。締結企業との協定に、24時間内にできるだけ早く食糧等を移送できるかが大事で、県の指示を待たずに動けるようなっている。協定締結企業は19社で、物品については一覧表になっており、災害時は混乱のないように訓練を積み重ねるとのことが重要である。

中島商事は県の協定締結企業で、プロパンガス、水などエネルギーを支援することになっている。企業として地域に育ててもらったと言う感覚が大きく「自分たちのできることを人のためにする」がモットー。災害時に水・電気を含むインフラを地域に提供する拠点として多くの備えをしている。災害時の水の必要性を痛感し、県内でも災害時にはいつでもどこにでも水を届けたいと考えている。

iv　第4回：2022年12月6日（火）13：30～16：00　参加者：18名

「災害ボラセンの運営力を見える化しよう～滋賀県内で何ができる！？」

講師：講師：石井布紀子さん（ＮＰＯ法人さくらネット　代表理事）

以前はスペシャルニーズへの対応が重要視されていたが、家屋への早期の対応で災害関連死が減ることがわかり、これを優先する傾向へと変化が起こってきている。災害ボラセンで被災した家に入って、各家屋に応じた取り組みが行えればいい。ワークショップは広域災害ボラセンの設置と、そこで必要な人・モノなどを「見立て」る体験で、安全な場所、交通、駐車場などの条件を踏まえて考えることが必要であることを学んだ。県外や国から来る団体も一緒に集まり考えることで、県域の過不足を近隣県や国で補うことができる。

⑵近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度

①災害支援市民ネットワークしが研究会（再掲）

5－⑴－②の研究会のうち、ｉ－第1回研究会、ii－第2回研究会、iii—第3回研究会、iv—第4回研究会を、近畿ろうきんパートナーシップ制度の枠組みで実施した。

近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度

近畿ろうきんが2000年度から始めた近畿2府4県内でのNPO・ボランティア活動を促すための制度。

2011年度からは東北地方を中心とした被災地での復興支援活動に力を入れていたものの、年月が経過する中現地支援からは軸足が遠のいていた。しかしながら2016年4月に発生した熊本地震を機に、現地支援の必要性から再度復興支援活動に取り組むこととなった。2018年度からはSDGsに関わり「誰もおいてきぼりにせぇへん」をテーマに掲げて事業を進めている。

②共通企画

近畿2府4県のNPO支援センターと近畿ろうきんが共同で事業に取り組むもの。2022年度は近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度では「支援する人、困っている人との『つながり』を育みながら、誰一人取り残さない社会づくり」をと各府県が取り組んでいる。その1年の集大成として、振り返りとともに講演とその内容からの話題提供を踏まえたクロストークで、2022年度の成果と今後につなげるセミナーを開催した。2022 年度は滋賀県が当番として近畿ろうきんと連携し、講師依頼・打合せ、事前準備、当日運営を担った。会場とオンライン併用で取り組んだ。

NPOパートナーシップ制度セミナー「市民活動の役割～人が人を支えるつながりづくり～を考える」

2023年2月11日（土）13：30 ～15：40

ⅰ　基調講演

「市民活動の役割～人が人を支えるつながりづくり～を考える」

川中大輔さん　シチズンシップ共育企画代表・龍谷大学社会学部准教授

ⅱ　NPOパートナーシップ制度活動報告

志場久起さん　わかやまNPOセンター

青山織衣さん　大阪ボランティア協会

ⅲ　クロストーク

「withコロナの社会における市民活動の役割を考える」

登壇者：わかやまNPOセンター、ボランティア協会、川中大輔さん

進行：しがNPOセンター

参加者：会場　19名　オンライン　41名

参加者の声

・自分に合った社会参加を選ぶという話は、民主主義につながるなと感じた。市民がどう能動的に社会のことを考えるか、それが政治も市民活動にも求められているのだと思う。

・担い手を増やし市民活動が活発になることで、未来に希望が持てる若者の増加につながるのではないかと思った。

・新しい市民参加の形を学ばせていただいた。特にソーシャルプロジェクトの発展についての見解は今後の業態のビジョン策定においても参考になる知見だった。

・地縁団体は活動への参加のハードルを下げなければならないし、来るもの拒まず去る者追わずの精神で参加してくれる人たちに向きあう必要があるんだなとあらためて思った。

(3)滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会

①災害ボランティアセンター運営協議会検討委員会

これまでの運営協議会に関して機能していない旨を県社協担当者に伝えたことで、アドバイザーの桑原英文さん（コミュニティ・エンパワメント・オフィス　FEEL Do 代表）とともに、あり方について検討を行った。

日時：2022年9月7日（水）13:30～15:00

場所：滋賀県長寿社会福祉センター

②災害ボランティアセンター機動運営訓練

これまでは災害ボランティアセンターの中での役割を担当していたが、今回は、災害支援市民ネットワークしがが担うべき役割を再確認するとともに、それに伴った訓練を災害ボランティアセンター内で独自に行った。

日時：2022 年 10 月 16 日（日）7:00～10:00

場所：滋賀県危機管理センター

６　ネットワークの構築

(1)近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度

「近畿圏NPO支援センター連絡会議」に出席

今年度より、参加団体の拠点で開催することとなり、滋賀での開催をハッシュタグ大津京として会議の運営にも関わった。

2022年5月23日（月）近畿労働金庫

2022年8月26日（金）オンライン

2022年11月29日（火）ハッシュタグ大津京

2023年3月14日（火）大阪ボランティア協会

(2)日本NPOセンター CEO会議

2022年7月27日（水）、28日（木）　大阪開催

2023年1月30日（月）、31日（火）　東京開催

(3)中間支援センター意見交換会

県内の中間支援団体で組織する意見交換会に参加した。

今年度の世話役は、大津市市民活動センター・(財)ハートランド推進財団・淡海ネットワークセンター

①2022年7月21日（木）会場とzoomのハイブリッド開催

テーマ：・労働者協同組合法の概要等について

講師：日本労働者協働組合センター事業団

特定非営利活動法人ワーカーズコープ京滋事業本部

松垣　芳伸　氏

各センターの情報交換

参加：幡（zoom）

②2022年10月28日（金）　会場：近江八幡旧市街

テーマ：1. 開催内容:近江八幡旧市街にて近江八幡の(財)ハートランド推進財団が令和元年度から市と協働で進めている「まちづくり団体育成支援補助金」で採択された団体の活動を実際に担当者にレクチャーしてもらいながらまち歩き

2. 交流会　各センターの情報交換

欠席：幡（日程調整がないため）

③2023年2月2日（木）

テーマ：各国のジェンダー平等の取り組みを支援するNGOの今

場所：大津市市民活動センター大会議室

講師：日本国際ボランティアセンター 広報部 並木麻衣さん

各センターの情報交換

欠席：幡（中間支援団体との情報交換時間だけ参加の予定だったが、

夏原グラント事務作業ひっ迫のため当日キャンセル）

7　会議等の開催

(1) 総会

2022 年 5 月 26 日（土）19：00～20：00　草津市立市民交流プラザ

会場とオンライン参加の併用で実施した。併用型での経験が積まれ、スムーズに運営することができた。遠方からや時間の余裕を考えると効果的であるので、適宜採用していきたい。

会場参加 9 名　オンライン参加 6 名

(2) 理事会

第 47 回　　2022 年 5 月 12 日（木）

第 48 回　　2022 年 10 月 12 日（水）

第 46 回　　2023 年 3 月 29 日（水）